

平成 27 年 2 月 18 日

報道関係各位

独立行政法人 国立科学博物館
日本顕微鏡工業会

企画展「国産顕微鏡 100 年展 ～世界一に向けた国産顕微鏡のあゆみ～」開催

プレスおよび関係者内覧会のお知らせ

国立科学博物館（台東区上野公園、館長：林良博）におきましては、このたび下記のとおり 3 月 3 日（火）から、**企画展「国産顕微鏡 100 年展～世界一に向けた国産顕微鏡のあゆみ～」**を開催いたしますので、お知らせいたします。

また、本展覧会のオープンに先立ち **3 月 2 日（月）に、別添のとおりプレスおよび関係者内覧会を実施いたします**ので、併せてご案内申し上げます。

国立科学博物館は、3 月 3 日（火）から 4 月 19 日（日）の期間で、企画展「国産顕微鏡 100 年展～世界一に向けた国産顕微鏡のあゆみ～」を開催いたします。

顕微鏡は発明されてから 420 年余りを経て、現在も科学、医学、産業など様々な分野の発展に貢献する重要な光学機器です。わが国で、現代につながる顕微鏡で最初に工業的に成功したものは、1914（大正 3）年に製造された「エム・カテラ」で、その後の国産顕微鏡発展の礎となりました。

本展覧会では「エム・カテラ」の製造販売開始から 100 周年を記念し、わが国の光学顕微鏡がこの 100 年足らずの期間で世界トップレベルになるまでに至った経緯を、江戸時代からの流れも含め、歴史的製品や最新製品および研究成果と共に紹介します。

つきましては、展示のオープンに先立ち、**3 月 2 日（月）午後 3 時 00 分～4 時 30 分の間、プレスおよび関係者内覧会**を実施いたしますので、取材・記事の掲載など本企画展の広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

記

【会 場】国立科学博物館（台東区上野公園 7-20）日本館 1 階 中央ホール、企画展示室

【開催期間】平成 27 年 3 月 3 日（火）～平成 27 年 4 月 19 日（日）

【入 館 料】常設展示入館料のみでご覧いただけます。

（一般・大学生：620 円（団体 310 円）高校生以下および 65 歳以上無料※団体は 20 名以上）

【休 館 日】毎週月曜日、ただし 3 月 30 日（月）は開館

【主 催】独立行政法人 国立科学博物館、日本顕微鏡工業会

【協 賛】サクラファインテックジャパン株式会社

【展示概要】別添の「展示の概要」にてご紹介します。

企画展「国産顕微鏡 100 年展 ～世界一に向けた国産顕微鏡のあゆみ～」

プレスおよび関係者内覧会のお知らせ

平成 27 年 3 月 2 日（月）午後 3 時 00 分～／上野・国立科学博物館

国立科学博物館では企画展「国産顕微鏡 100 年展～世界一に向けた国産顕微鏡のあゆみ～」の開催に先立ち、下記のとおりプレス内覧会を実施いたします。

当日は、担当研究者による展示解説も行いますので、ぜひご参加いただき、記事として取り上げていただければ幸いです。

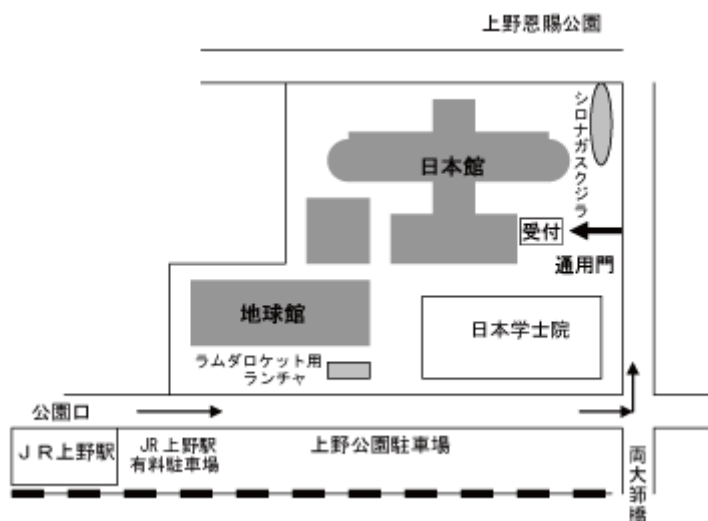
記

【日 時】 平成 27 年 3 月 2 日（月）午後 3：00～午後 4：30（受付開始午後 2：30～）

【会 場】 国立科学博物館 （東京都台東区上野公園 7-20）

【受 付 場 所】 国立科学博物館 事務棟入口 ※通用門からお入りください。

＜交通のご案内＞ JR 上野駅公園口から徒歩 5 分、東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅から徒歩 10 分、京成電鉄上野駅から徒歩 10 分 ※駐車場の用意はございません。



参加をご希望の方は、別紙「返信用紙」にて 2 月 26 日（木）までにお知らせください。

※事前にお申し込みいただかなくても、当日ご参加できますが、大まかな人数把握をさせていただきたく存じますので、ご返信いただければ幸いです。

本件に関するお問い合わせ先

国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 担当：吉野英男、土屋順子

T E L 03-5814-9175、9887 F A X 03-5814-9899

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

E-mail:kikakuten@kahaku.go.jp

詳細は下記をご覧ください。

<http://www.kahaku.go.jp/event/2015/02microscope/>

当日のスケジュール

午後2：30～ 受付開始（受付場所：事務棟入口 ※通用門からお入りください）

午後3：00～4：30 展覧会内覧（会場：日本館1階企画展示室）

- ・担当研究者が展示解説を行い、皆様からのご質問にお答えします。
- ・展示室内の撮影が可能です。

担当研究者のプロフィール



国立科学博物館産業技術史資料情報センター長 鈴木 一義

専門は機械工学、技術史。

日本の科学技術の発達過程（特に近世以降）を中心に、在来技術や近代技術、現代の産業技術に関わる直接的な資料の収集、調査、研究を行っています。江戸時代のからくり人形、鉱山・測量技術から、明治の製鉄、紡績、現代の自動車、飛行機、ロケットそしてモノづくりまで、日本だからできた技術、その特徴を調べています。



国立科学博物館理工学研究部科学技術史グループ 沓名 貴彦

専門は材料工学、保存科学。

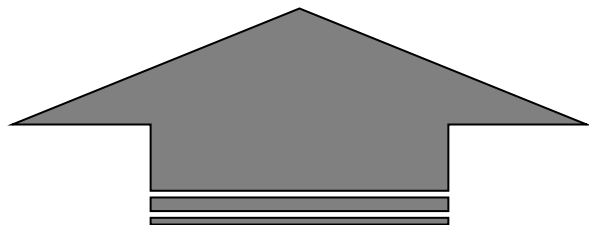
金や銀といった非鉄金属の生産に使用したとみられる遺物に、科学的な手法を活用して使用目的やその技術を調べることで、日本における非鉄金属生産技術の発展過程を研究しています。また、人間が生み出した様々なモノを未来に伝えるための研究もしています。



日本顕微鏡工業会事務局長 長野 主税

専門は応用物理学、光学設計。

1976（昭和 51）年にオリンパス光学工業（現オリンパス）に入社して以来、主に顕微鏡の光学設計・研究開発に従事してきました。対物レンズや接眼レンズをはじめ顕微鏡関係の光学系の開発を数多く担当しました。2005（平成 17）年より現職を務めています。



【 返 信 用 紙 】

F A X 番 号

< 0 3 - 5 8 1 4 - 9 8 9 9 >

企画展「国産顕微鏡 100 年展

～世界一に向けた国産顕微鏡のあゆみ～」

プレスおよび関係者内覧会 参加票

(平成 2 7 年 3 月 2 日 (月) 午後 3 時 0 0 分～午後 4 時 3 0 分)

(受付 : 午後 2 時 3 0 分～)

参加をご希望される方は、下記項目にご記入の上、事前に F A X にてご返信
いただければ幸いです。

お手数をおかけいたしますがよろしくお願い申し上げます。

☐ ご出席

貴社名 _____

貴メディア・所属部署名 _____

ご芳名 _____

連絡先

住所 : 〒 _____

TEL : _____ FAX : _____

メールアドレス : _____

備考 _____

100th anniversary

国産顕微鏡

A Century of Japanese Microscopes

100年展

エム・カタラから

～世界一に向けた国産顕微鏡のあゆみ～

How Made-in-Japan Microscopes Took on the World

展示の概要

顕微鏡は発明されてから 420 年余りが経ち、科学、医学、産業など様々な分野の発展に貢献してきました。本展覧会では、現在につながる顕微鏡で最初に工業的に成功した国産顕微鏡「エム・カタラ」の製造販売開始から 100 周年を記念し、わが国の光学顕微鏡がこの 100 年足らずの期間で世界トップレベルになるまでに至った経緯を、江戸時代からの流れも含め、歴史的製品や最新製品および研究成果と共に紹介します。顕微鏡の製造開発に携わった方々の情熱を感じ取っていただければ幸いです。

プロローグ ～顕微鏡事始め～

光学顕微鏡は、1590 年頃にオランダのヤンセン父子により発明されたました。その後ロバート・フックやレーベンフックにより細胞や微生物が発見され、新たな世界を切り拓きました。

日本では、江戸中期における紅毛談や紅毛雑話にみられる顕微鏡の記載が始まりとされ、その当時輸入された顕微鏡や、日本で作成された顕微鏡が現存しています。顕微鏡での観察は、当時の大名など趣味人に受け入れられました。

ここでは、光学顕微鏡の始まりを示す資料や江戸時代に日本で作られた顕微鏡について、日本館 1 階常設展の顕微鏡コーナーを一部変更して展示します。

エム・カタラの登場と顕微鏡工業の創成 ～国産光学顕微鏡の産声～

明治以降日本は、医学や養蚕業の発達にともない、顕微鏡の普及が拡大しました。おもにドイツから顕微鏡を輸入していましたが、利用度の高まりから、明治の終わりに国内でも顕微鏡を作ろうとする人が出てきました。中でも東京大正博覧会に出品されたエム・カタラは、量産化に成功し、その性能とその後の影響からも、わが国の顕微鏡工業創成の礎として位置付けられます。ここではエム・カタラを中心に、その技術を継承し創業した顕微鏡製造各社の創業機種を展示するとともに、北里柴三郎、野口英世など著名な研究者が使用した外国製顕微鏡を紹介します。

戦後の技術革新の中で ～顕微鏡大国への道程～ ～多様化する顕微鏡～

終戦後、光学技術の平和利用転換から、新規参入も含め多くの会社が顕微鏡の製造を開始しました。日本人の精密光学機器製造に関する適性と持ち前の勤勉さから、徐々にその性能向上が図られ、現在では戦前、戦後を通じて常に世界をリードしてきたドイツ製顕微鏡に対し、機能・性能・サービスなどの面でトップを競い合うまでになりました。ここでは、そこに至るまでの代表的な機種を展示します。またコーナー後半では、様々な種類の顕微鏡の発展についても紹介します。

エピローグ ～顕微鏡の未来を探る～

最新の顕微鏡や大学、産業界における最先端の顕微鏡を展示し、これからの顕微鏡の可能性を展望します。また、顕微鏡を使った科博の研究についても紹介します。

「エム・カタラ」

「エム・カタラ」は、ドイツのライツ社製顕微鏡を模して、苦心の末に誕生しました。1914（大正 3）年の製造販売開始から 100 年を記念して、中央ホールにエム・カタラをモデルとしたジャイアント顕微鏡が登場します。



ご多忙とは存じますが、是非ご観覧・ご取材くださいますよう、ご案内申し上げます。

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの各種手続き・報道関係資料→写真・施設の貸出からお申し込みできます。
(<http://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/index.html>)



ポスター
(国産顕微鏡100年展)
画像提供: 国立科学博物館



エム・カテラIV
画像提供: 国立科学博物館



オリンパス BX63
画像提供: 国立科学博物館



紅毛雑話
画像提供: 国立科学博物館



木製簡易型顕微鏡
画像提供: 国立科学博物館

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 展覧会の開催情報紹介欄に、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は確認のため、校正の段階でお送りください。(記事内容をチェックするものではありません。)
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈広報に関するお問い合わせ先〉 国立科学博物館 事業推進部 広報・常設展示課 吉野千津、土屋実穂
電話 03-5814-9855、9858 FAX 03-5814-9898
E-mail: shuzai@kahaku.go.jp
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20



国産顕微鏡

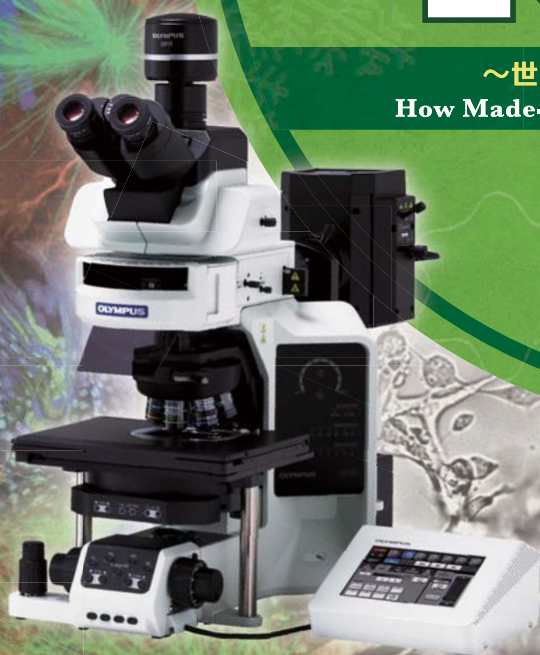
A Century of Japanese Microscopes

1   年展

エム・カテラから

～世界一に向けた国産顕微鏡のあゆみ～

How Made-in-Japan Microscopes Took on the World



期
間

2015年

3/3  4/19 

会
場

国立科学博物館 (東京・上野公園)
日本館1階中央ホール、企画展示室

■開館時間／午前9時～午後5時(金曜日は午後8時まで)
※入館は各閉館時刻の30分前まで

■休館日／毎週月曜日、ただし3月30日は開館

■入館料／一般・大学生620円(団体310円)
高校生以下および65歳以上無料

■主 催／国立科学博物館、日本顕微鏡工業会

■協 賛／サクラファインテックジャパン株式会社